

ウィーン宣言（仮訳）

他者と共に生きる歓び

——諸宗教による平和のビジョン——

第9回世界宗教者平和会議世界大会

2013年11月22日

オーストリア共和国ウィーン市

我々一人類史上世に知られたすべての宗教伝統と世界のすべての地域を代表する600人を超える宗教指導者と宗教者は、第9回世界宗教者平和会議（WCRP）¹の開催にあたりオーストリア共和国ウィーンに参集した。我々は、90の国内諸宗教評議会と地域グループ、5つの地域委員会、1つの管理委員会および女性宗教者と青年宗教者の世界ネットワークから構成されるWCRPの世界ファミリーの一員である。我々のそれぞれの宗教伝統は、これまでも我々に平和の実現に向け互いに手を携え協働することを求めてきた。

過去において開催されたWCRP世界大会は、これまですでに平和のポジティブな要素、平和に対する共通の脅威および平和実現のために共有される価値を通して表現された諸宗教の総意を表明してきた。我々は、諸宗教による平和のビジョンの中核をなす「他者と共に生きる歓び」が喫緊の課題であるとの確信に基づいて、深い思索に支えられ、かつ広範に共有される価値に根差した共通の行動に挺身している。

我々は、以下の通り、それぞれの宗教伝統が共有する平和のポジティブな要素を再確認する。

- ・ 平和は、それぞれの宗教にとって中核をなすものであり、我々の信ずる信仰は多様であっても、それぞれの信仰は我々に平和構築に向けて協働するよう強く呼びかけている。
- ・ 愛、慈悲および誠実は、憎悪、無関心および欺瞞よりも強いものである。
- ・ すべての人間は、男性たると女性たるとを問わず、人間としての尊厳を与えられ、共通の人間性を分かち合い、互いに他者を慈しみ、他者が直面している問題を自己の問題として考えることを求められている。
- ・ 我々は、最も弱い人々の立場に立ち、これらの人々の地位を向上させ、正義と調和

¹ WCRP（世界宗教者平和会議）は、バハイ教、仏教、キリスト教、ヒンズー教、民族宗教、ジャイナ教、ユダヤ教、イスラーム、シーク教、神道、道教、ゾロアスター教の宗教指導者からなる世界最大規模の諸宗教対話組織である。

のある社会の実現を目指すことを使命として受け入れる。

- ・ 我々は、平和を構築するうえで女性も男性も共に平等なパートナーであり、これを尊重する。
- ・ 我々の最大の関心の一つは、子どもたちにある。我々は、幼い子どもたちの持つ特別の地位に鑑み、彼等に対して保護と介護を与え、我々の社会資源を優先的に与えなければならない。
- ・ 対話を通じた非暴力的な紛争解決と和解は、平和構築の中核をなすものである。
- ・ 核兵器をはじめとするすべての大量破壊兵器と無差別破壊兵器の使用は、倫理に反する行為である。
- ・ 人間開発を促進し、地球環境を守ることは、平和への取り組みの一部である。

我々が共有する平和のポジティブな要素は、平和への共通の脅威に共に立ち向かううえで我々が共有する使命と不離不可分に結びついている。こうした平和への脅威には、以下のものが含まれる。

- ・ 暴力的な過激主義を含め、いかなる形態であれ、暴力を擁護するために宗教を誤用すること
- ・ 現在進行しつつある、いのちを守る諸々の価値を破壊へと導く霊性の危機
- ・ 暴力的な紛争と武器の拡散
- ・ 基本的権利の広範にわたる侵害を含め、極端にして、かつますます増大の傾向にある不平等
- ・ 女性に対する暴力、児童虐待および家族への支援の弱体化
- ・ 極端な貧困、治療されず放置されたままにある予防可能な疾病および広範囲にわたる機会の欠如
- ・ いかなるものであれ、市民の秩序や人間の繁栄を脅かす環境悪化、自然資源の枯渇および気候変動

我々は、宗教を信じる者の一部が信仰を基盤とした平和の教えに対し背信行為を行っていることを告白するとともに、他方、我々自身はもとより——我々の共同体も——共に傷を癒し、共に生き、共にいのちを守ることを基本理念として共に幸福になる道を歩む平和の文化に献身する努力を続ける。

増大する敵意

第9回 WCRP 世界大会は、平和への新たな脅威——敵意の増大——に対し注意を喚起する。

我々は、社会において、そして宗教共同体内部においても、宗教共同体間においても敵意が増大していることに対し深く憂慮する。「他者」に対するこうした敵意は、不寛容の延長にほかならず、あまりにもしばしば暴力の形態をとって現われる。敵意の犠牲

となるのは、多くの場合、民族・宗教・言語の面で少数者に属する人々や、移民、難民、亡命を求めている人々、国内避難民の人々および国をもたない人々を含む弱い立場の人々である。

敵意は、政府・個人・組織・社会グループなど、社会のあらゆるところで発生する。宗教または信仰の自由は、国際的にますます尊重されるようになっているが、宗教的信条や宗教儀式に対し諸々の制限を課そうとする政府も増えている。しばしば、一部の宗教が、他の宗教より劣位な立場に置かれることがある。宗派間や共同体間の暴力が、社会を分断し、紛争を激化させ、さらには罪のない人々のいのちを奪っている。不寛容と「他者」への恐怖によって深刻化する個人や集団への社会的敵意は、人間の尊厳や正しい統治、そして共に幸福を目指す生き方を脅かしている。人々は、以前にもましてその信じる信仰の故にますます迫害を受けている。

いかなる形態であれ、不寛容と暴力は平和への障害である。それらは、平和に対するその他の重大な脅威に対しさらなる深刻な悪化を生じさせている。宗教共同体は、平和に対する喫緊の脅威として、同時に平和に対する他の緊急の脅威と取り組む鍵として「他者」に対する敵意に立ち向かわなければならない。

「他者と共に生きる歓び」—— 諸宗教による平和のビジョン

我々が抱く諸宗教による平和のビジョンには、信仰を持つすべての人々に対し「他者と共に生きる歓び」の呼びかけが含まれている。我々が属する多様な宗教伝統はそれぞれ、一体性の精神に深く根差した「他者」との間の強固にして活動力に溢れた連帯と共感の構築を求めている。これこそ、我々の宗教共同体において深い思索に支えられ、かつ広く共有されている価値にほかならない。「他者と共に生きる歓び」とは、互いに尊敬し、互いに受容し合うことを意味する。

我々は、寛容を強力に促進することを支持する。寛容こそ、普遍的な人権の認識から育まれ、「他者と共に生きる歓び」にとって必要不可欠な原則である。

「他者と共に生きる歓び」とは、それぞれの宗教共同体に対して、各宗教の持つ霊的・倫理的な教えを余すことなく駆使して他者の尊厳・脆弱性・幸福と連帯するよう呼びかけ、それによって寛容を強固にするとともに、寛容を超えていくものである。それらの教えは、それぞれの宗教伝統にとって明らかなものである。それには、すなわち正義のための努力、他者の幸福のための私心なき自己犠牲、いわれなき苦しみにも耐え忍ぶこと、悪に対し善で応じること、赦しを求めるとともに、赦しの手を差し伸べること、そして限りなき憐憫と愛が含まれる。

「他者と共に生きる歓び」は、我々に包括的な人間開発を通して人間の尊厳が最大限満ち輝くための行動の歩みを進める努力をするよう呼びかける。

過去の世界大会における大会宣言に基づき、我々は、「他者と共に生きる喜び」がすべての人々に対し、自然への尊敬や自然との調和ある発展を含め、共有される幸福を共に築き、共に発展させ、共に守るよう誘うものであることを認識する。地球の世話役となることは、神聖な宗教的な責務である。

共に行動する宗教共同体は、暴力が起こる前にこれを防止し、紛争が起きた時にはそれを緩和し、戦争によって引き裂かれた社会を再構築するにあたってはそれぞれのコミュニティに対し力強い指導力を発揮する行動主体になることができる。武器に使われる過度の資源は、むしろ貧困の撲滅、万人の教育と最低限の公衆保健衛生の促進に使われ、かつ環境問題に対する取り組みに供されるべきである。「他者と共に生きる喜び」とは、互いに他者の中に自分自身を見ることである。これを促進するためには、我々は子どもたちに非暴力、紛争予防の方策および平和の普遍的な価値を教えなければならない。我々の共有する平和のポジティブなビジョンは、平和の人権の基盤となるものである。

我々は、宗教または信仰の自由を含む基本的人権を承認するより強固なシチズンシップの概念を促進することによって「他者と共に生きる喜び」を分かち合うことができる。

宗教共同体は、地球を尊重する人間開発を促進するために共に手を携えて協働する時、「他者と共に生きる喜び」を分かち合うことになる。「他者と共に生きる喜び」は、災害と人間の苦悶を一層激化させる地球の破壊に加担することを拒絶する。大気、土壌および水の保全は、人間の生存と幸福に不可欠なものである。開発は、現在と未来世代の利益にかなうよういのちの継続性を尊重し、自然を保護するものでなければならない。

我々の宗教共同体はそれぞれ、「他者と共に生きる喜び」のための宗教教育の中核の担い手となることができる。そのためには、我々は「他者と共に生きる喜び」を呼びかける我々自身の宗教的教えを重ねて主張し、青年を含め、それぞれの信仰共同体においてこれを広く分かち合うとともに、それを実践に移していかなければならない。

宗教共同体は、諸宗教による平和のビジョンの促進と諸宗教による行動を通して、悪化の一途を辿りつつある「他者」に対する敵意の風潮を逆転させることができる。WCRP世界大会は、特に以下のことを呼びかける。

1) 諸宗教指導者および宗教者は：

- ・ 時と場所のいかんを問わず、人間の尊厳が侵されているときは、いつでも人間の尊厳を尊重し、かつそれを擁護する。

- ・ 女性と女子の尊厳を高めて、男女の一層活動的な協働を助長し、女性や女子に対する暴力を防止するために手を携えて協働する。
- ・ 個人たると集団たるとを問わず、弱者や信仰の故に迫害を受け、人間としての存在が否定されているすべての人々の声を彼らに代わって世に強く訴える。
- ・ 共同体はもとより、家族や親族の幸福が、子どもたちの幸せにとって欠くことのできない必要条件であることを認識する。
- ・ 気候変動の原因に対する責任と説明責任があることを訴える。
- ・ 「他者と共に生きる歓び」と持続可能な平和を促進することを目的とした青年主体の草の根的行動の価値を認める。
- ・ 幸福を分かち合ううえで必要不可欠な霊的価値を促進する。
- ・ 我々の共同体において多様性を受け容れることを強化する。
- ・ 礼拝と宗教儀礼を通して「他者と共に生きる歓び」を分かち合う。
- ・ 「他者と共に生きる歓び」を分かち合うために、各界の関係者と連携し、協力する。
- ・ 具体的な諸宗教の行動により共に人間の尊厳を守り、地球市民らしく幸せを分かち合うことを促進し、これによって「他者と共に生きる歓び」につながる諸宗教のネットワークの影響力をさらに強化する。

2) 各国政府、国際機関、市民社会は：

- ・ 包括的な幸福のための開発と万人の普遍的な人権の完全な享有を保障し、かつこれを擁護するために透明性のある統治を推進する。
- ・ 非寛容による犠牲者を救済する法的方策を講じる。
- ・ 移住者、難民、亡命を求めている人々、国内避難民の人々および国を持たない人々の尊厳を認める社会政策と規範の制定を促進する。
- ・ 多数者たると少数者たるとを問わず、宗教または信教の自由を含め、すべての個人の安全と幸福、および個人や集団の他の権利を擁護するとともに、人間の尊厳を保障するシチズンシップを促進する。
- ・ 礼拝の場を保護することを保障する。
- ・ 核兵器や他の大量破壊兵器を廃絶し、小型武器の拡散を防止する。
- ・ 暴力的紛争の犠牲者と加害者の双方を癒すための修復的正義を促進する。
- ・ 生きとし生けるすべての存在と将来世代を守るために、核による被曝と汚染の脅威を訴える。
- ・ 「他者と共に生きる歓び」の努力を結集する宗教者、宗教指導者、宗教共同体および諸宗教ネットワークを支援し、これと提携する。

3) 善意のすべての人々は：

- ・ いかなる形態のものであれ、国家・非国家的行動主体・市民社会・宗教集団や宗教指導者・個人による非寛容と差別に対しこれに注視するよう呼びかけ、それを排除するために働く。

- ・ 他者と共に生きることを歡ぶ。

我々、第9回 WCRP 世界大会に参集した代表者は、「他者」に対する敵意という形態で現れる平和への脅威に対し断固これに立ち向かうとともに、すべての人々の偽りなき真実の繁栄を促進することによって「他者と共に生きる歡び」のために積極的な行動を取ることを誓い、心をひとつにした。こうした行動への献身の誓いと、それに伴う行動への呼びかけは共に、我々の掲げる諸宗教による平和のビジョンを表明するものである。

オーストリア共和国ウィーン

2013年11月22日